

2014年度 事業報告書

2015年2月23日から2015年5月31日まで

特定非営利活動法人 Social Change Agency

1. 事業の成果

初年度は3ヶ月間という短期間ではあったが、ソーシャルワーカーの社会的認知度向上プロジェクト事業においては、「メールマガジン配信」に注力し、記事作成をするライターも2名増え、計7名となった。メールマガジン登録者数も2月から5月末で133名増、計660名となり、法人としての情報発信機能を強化することができた。

ソーシャルワーカーによる学び創出コミュニティプロジェクト事業においては2つの企画を実施した。

・3月14日開催「未来の福祉・心理を担うみなさんへ～互いを理解し合い、未来の連携について考えよう!～」(一般社団法人心理支援ネットワーク心PLUS主催、弊法人は共催団体として人的サポートを行った)

本イベントは、「臨床現場において協働する機会の多い両者が、学生時分には交流・理解を促進する機会がない」という大学生からの問題提起をもとに企画化、社会福祉学、心理学を学ぶ学生間の学び合いと理解の促進を目的に開催した。実際に臨床で実践を行っている社会福祉・心理従事者6名からのプレゼンテーションに加え、学生同士が福祉・心理の職種の活用のポイントなどを出し合うワークショップなどを盛り込んだ。

参加後のアンケートにおいて、全体の満足度について、「大変よかった」が7割、「よかった」が3割と満足度も非常に高く、「現場に出る前に交流・連携についての考えをきめられた」、「普段あまり他の領域を勉強している人と、お互いについて話す機会がなかったので良かった」、「各専攻の考え方を聞ける機会がかなり貴重だと思った」、「福祉・心理の人と濃密な時間が過ごせた」などの声が聞かれた。次回開催を望む声も大きく聞かれたゆえ、次年度の開催も検討する予定とした。

・4月28日開催「AKARI」

現職の社会福祉従事者(入職1-3年目)と大学生(3,4年生)を対象に、交流と日々の学びや気づきを共有し、ネットワークを構築してもらうことを目的に企画を行った。大学生の立場からは、就職活動や国家試験について、年齢の近い社会福祉従事者(入職1-3年目)に質問することができ満足度が高かったようであった。社会福祉従事者同士も入職後1-3年目とキャリアが近いこともあり、その後、個人的に連絡を取り合うなどの関係が参加者同士に生まれたとのことであった。

開催後のアンケートでは、「職場内では話せないことが話せたり、かつキャリアが近いからこそ共有できる話題もありよい機会となった。楽しかった」などの感想があるとともに、「なかなか職場を超えたつながりを作る機会がないので、交流の場を定期的につくってほしい」という意見があるなど、一方通行の研修等だけではなく、交流をし、自由に話をし合える場が、社会福祉従事者の中である一定のニーズとして存在することを、法人として確認することができた。次年度はこのようなニーズに対し、学びの提供だけではなく、交流の機会を提供する場の企画なども行っていくこととしたい。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
ソーシャルワーカーの社会的認知度向上プロジェクト事業	社会福祉に関する情報をメールマガジンにて配信。	随時	都内 法人事務所	7名	日本全国のソーシャルワーカーとそれを志す学生、興味のある一般市民。703名。	0
ソーシャルワーカーによる学び創出コミュニティプロジェクト事業	社会福祉学と心理学を学ぶ学生同士の学び合いイベント(イベント名「未来の福祉・心理を担うみなさんへ～互いを理解し合い、未来の連携について考えよう!～」)*一般社団法人心理支援ネットワーク心PLUSとの共同開催。	3月14日	立教大学池袋キャンパス1202教室	3名	33名(社会福祉、心理学を学ぶ大学生)	0(事業費は共同開催の心PLUSにて会計処理。弊法人はマンパワーとしての参加のみ)
ソーシャルワーカーによる学び創出コミュニティプロジェクト事業	学生と社会人同士で日々の気づきや学びを共有するイベントを開催(イベント名「AKARI」)	4月28日	Beez渋谷店(コワーキングスペース)	3名	12名(大学生6名、社会人6名)	5.2

2. その他の事業

本年度は、その他の事業は実施せず。

3. 組織運営体制について

事業を実施するスタッフが3名増えた。法人に関わるスタッフの全員が無給であり、ボランティアでの関わりとなっている。

今後、安定して事業を行っていくためには、組織運営基盤を整えていく必要がある。